

社会科シラバス 中学歴史

1. 学習の到達目標と評価の観点

(科目) 歴史	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	週 2 時間 × 2 年 ※3 年次は週 3 時間	第 1・2 学年 第 3 学年 1 学期	中学社会歴史的分野(日本文教出版)
学習の到達目標	<p>(1) 人間を取り巻く環境や、身の回りでおこるさまざまな事象、また人間存在そのものに対して自然科学と社会科学両面から幅広い視野を持って探究する姿勢を育て、得られた歴史的知識・読解力など情報を活用する技能を実社会の問題解決に役立てる態度を養う。 (Science)</p> <p>(2) 異なる文化や価値観に対する理解と日本の今日の姿や歴史・文化などに対する理解を深め、それらを尊重しながら、日本に生活の基盤を置く者としての考えや価値観を世界に発信できる力を養い、現在世界で起きているさまざまな問題を解決するために多種多様な人びとと協調できる人間になる。(Global)</p> <p>(3) 歴史の学習活動を通じて、相手の立場に立って考える姿勢を磨くとともに、人文科学・社会科学の基礎的な知識を結びつけ、論理的に活用する能力を獲得し、変化の激しいこれからの時代を生き抜き、明るい未来を切り拓いていくための教養を身につける。 (Liberal Arts)</p>		
評価の観点	<主体性・多様性・協働性>		
	<思考力・判断力・表現力>		
	<知識・技能>		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

- A : 「十分満足できる」状況と判断されるもの 100%
- B : 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの 80%
- C : 「努力を要する」状況と判断されるもの 60%
- D : 未提出, 未実施 0%

2、学習内容及び評価方法

中学1年生

月	単元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
4 月 5 月 6 月	<p>第2編 古代までの日本と世界</p> <p>第1部 人類の始まりと文明</p> <p>1 人類の出現</p> <p>2 古代文明の誕生</p> <p>3 中国の文明と東アジア世界</p> <p>4 ギリシャ・ローマの文明</p> <p>5 文明と宗教</p> <p>第2部 日本列島の人びとと国家の形成</p> <p>1 日本人のルーツと縄文時代</p> <p>2 稲作の広まりと弥生時代</p> <p>3 ヤマト王権と渡来人</p> <p>【朝貢・冊封とは何か】</p> <p>4 東アジアの統一国家</p> <p>5 聖徳太子と飛鳥文化</p> <p>6 律令国家の成立</p> <p>第3部 古代国家の展開</p> <p>1 奈良の都と人々の暮らし</p> <p>2 天平文化と聖武天皇</p> <p>3 平安京と桓武天皇</p> <p>4 摂関政治と国風文化</p>	<p>狩猟採集中心から農耕牧畜が始まることで、社会がどのように変化していくのか探る。</p> <p>また、その結果、どのような特色のある地域で文明が発展していくのか、分析する姿勢を身につける。</p> <p>現代政治とのつながりにおけるギリシャ・ローマや三大宗教の理解をすすめる。</p> <p>旧石器～縄文、弥生、古墳と、社会がどのように変化したのか、考古的な資料から読み取れることを、まとめて説明できるようになる。</p> <p>中国で成立した、律令を基礎とした強大な中央集権国家の成立が周辺の諸国にどのような影響を及ぼし、日本はどのような改革を進めて律令国家を作ったのかを学習し、理解していく。</p> <p>独自の律令制度がどのように運用され平安時代にかけて変質していくのかも考察する。</p> <p>平安時代にかけて、律令の変質とともに、摂関政治という新しい政治システムが採用される時代性を理解し、奈良時代の天平文化から平安期にかけて、文化がどのように変化していったのか体感する。</p>	<p>□人類の進化について、特徴的な語句を使って説明できる。</p> <p>□メソポタミア・エジプト・インダス文明の共通点と違いを説明できる。</p> <p>□中国の国家がどのような制度を導入し広大な領土を支配できたか説明できる。</p> <p>□ギリシャ・ローマの政治のしくみとその文化について説明できる。</p> <p>□三大宗教が広まった地域・おこした人物、教えについて説明できる。</p> <p>□旧石器時代と縄文時代の、生活の工夫や特色を、その違いも含めて説明できる。</p> <p>□縄文と弥生の生活や社会のあり方がどのように違うのか説明できる。</p> <p>□ヤマト王権がどのようにして勢力を拡大したのか、対外関係から説明できる。</p> <p>□中国の律令国家である隋や唐が周辺諸国にあたえた影響について説明できる。</p> <p>□蘇我氏や聖徳太子が行った政治の改革について、行った理由を説明できる。</p> <p>□大化改新から大宝律令制定にかけての中央集権化の動きについて説明できる。</p> <p>□税を中心に、朝廷の国家作りのねらいや当時の人々の生活について説明できる。</p> <p>□天平文化の特徴を「仏教」と「国際性」という視点から説明できる。</p> <p>□桓武天皇がおこなった政策の特徴について説明することができる。</p> <p>□国風文化発展の理由について、摂関政治の内容や外交の変化から説明できる。</p>

9 月 10 月 11 月	<p>第3編 中世の日本と世界 第1部 古代から中世へ 1 武士の登場 2 院政と平氏政権 第2部 鎌倉幕府の成立 1 鎌倉幕府の政治 2 鎌倉時代の人々の暮らし 3 鎌倉時代の文化と仏教 4 元の襲来と鎌倉幕府</p> <p>第3部 室町幕府と下剋上 1 南北朝の動乱と室町幕府 2 東アジアの交流と琉球王国の成立 3 産業の発展と都市と村 4 応仁の乱と戦国大名 5 室町時代の文化とその広がり</p> <p>第4編 近世の日本と世界 第1部 中世から近世へ 1 イスラム教の世界とキリスト教の世界 2 つながれてゆく世界</p>	<p>中世の代表的存在である武士がどのように成長し、政治に影響を及ぼすようになったのかを学習し理解していく。</p> <p>院政の成立から平氏政権の成立では達成できなかった課題を鎌倉幕府が実現していく経過や背景なども社会のしくみから考察する。鎌倉時代に見られた社会・経済・文化における新しい傾向も武士の台頭という視点から理解する。また、その鎌倉幕府がなぜ衰退し、室町幕府の成立に至ったのか、外交的な事件と内政における視点から理解する。</p> <p>室町幕府のしくみについて、鎌倉幕府との比較を導入として分析し、その違いと支配の方法について学習する。また、地域や民衆が活発化していく室町時代のダイナミックな動きを理解するとともに、そこから芽生えた文化や社会の特色についても知識の定着をはかる。</p> <p>新航路の開拓などをきっかけに世界が一体化していくなかで、その動きを体感しつつ、日本にどうつながっていくのか想像しながら学習する。</p>	<p><input type="checkbox"/>武士がどのようにおこり、力をつけていったのか説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>平氏の政治について、貴族的な面と武士的な面から説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>鎌倉幕府が武士に指示された理由について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>鎌倉時代の人々はどのように生活し、社会はどのように変化したのか説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>鎌倉時代の文化や仏教について古代との違いから説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>鎌倉幕府がおとろえた理由について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>室町幕府と鎌倉幕府のしくみの違いと、その理由について説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>室町期の日本と近隣諸国・地域がどのように交流していたのか説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>産業の発展と、村の自治や土一揆がどのように関係しているのか説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>「実力」などの言葉を使って戦国時代がどんな時代だったのか説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>室町時代の文化を担った人々はどんな人々だったのか説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>イスラム教とキリスト教の世界がどのように影響し合っていくのか説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>一体化した世界が、それ以前の世界と比べてどう違うのか説明できる。</p>

1 月 2 月	<p>第4編 近世の日本と世界 第1部 中世から近世へ 3 ヨーロッパ人の来航と信長 4 秀吉による全国統一 5 秀吉の海外政策 6 安土桃山時代の文化</p>	<p>一体化しつつある世界と日本列島のつながりの中で、日本社会がどのように大きく動いていくのか、織田信長や豊臣秀吉の動向をふまえながら学習し、理解していく。</p>	<p>□鉄砲とキリスト教の伝来が日本にあたえた影響について説明できる。 □豊臣秀吉がどのような社会をつくろうとしたのか説明できる。 □朝鮮への侵略がもたらした影響について説明できる。 □安土桃山時代の文化の特徴と、生み出された理由が説明できる。</p>
	<p>第2部 江戸幕府の成立と東アジア 1 全国支配のしくみ 2 朱印船貿易から鎖国へ 3 隣接地域との関係とアイヌ文化の成熟 4 江戸時代の百姓と町人</p>	<p>○江戸幕府の諸政策に着目して、260年にわたる江戸幕府の支配が確立した背景を理解する。 ○朱印船貿易の推進から鎖国の開始まで、対外政策の転換した過程を、その理由を含めて、貿易・宗教・情報の視点に着目して考える。 ○鎖国下の日本の対外交流について整理して理解する。 ○江戸時代の社会の特色について、身分制を中心に理解する。</p>	<p>□安定的な支配を進めるために江戸幕府が行ったことについて説明できる。 □江戸幕府がいわゆる鎖国政策を行った理由について説明できる。 □江戸時代の、隣り合う国や地域との関係について説明できる。 □江戸時代の身分ごとの役割について整理したうえで説明できる。</p>
評価の観点及び内容			評価方法（具体例）
歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。＜主体性・多様性・協働性＞			①：授業ノート提出・ワークシート提出・授業出席点(30%)
歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。＜思考力・判断力・表現力＞			②：定期試験(35%)
我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。＜知識・技能＞			③：定期試験(35%)

【観点別評価】

1, ノート提出

A：空欄の補充が適切にできており、講義の内容や資料の内容を多くメモしていて、授業への主体的な取り組みができていますと判断できるもの。

B：空欄の補充ができているが、講義の内容や資料の内容をほとんどメモしていない。

C：補充できていない空欄が存在する。

D：未提出

2, ワーク課題

課題内容	評価指標
------	------

<p>農耕と文明の因果関係を説明する</p>	<p>A：文明の特徴がどのように生まれ、どのように影響を与えたのか、その文物を正しく理解しながら、因果関係について多面的に考察し、表現している。</p> <p>B：因果関係への考察に努力が見られるが、その分量が不足しており、限られた視座に留まっている。</p> <p>C：文明の特徴的な文物を誤って理解しているか、その院外関係の考察が不十分かつ分量が著しく少なく、考察の努力が読み取れない。</p> <p>D：未提出</p>
<p>「税」をキーワードにして、律令制下の人々の生活を説明する</p>	<p>A：税の全体像をおさえ、それがいかに人々にとって重たい負担になっていたかを理解したうえで説明できている。</p> <p>B：基本的な内容は押さえられているが、説明文から当時の人々の苦しみが伝わってこない。</p> <p>C：税のしくみについての理解が不十分である。</p> <p>D：未提出</p>
<p>承久の乱を通して、古代から中世への変化を考える</p>	<p>A：承久の乱の経過をおさえるとともに、乱の前後で幕府と朝廷との力関係が大きく変化し、日本を支配するしくみが大きく変わったことを理解している。</p> <p>B：歴史的な事実については理解できているが、承久の乱の歴史的な意義についての理解が不十分である。</p> <p>C：承久の乱の原因・結果について、理解が不十分なところがある。</p> <p>D：未提出</p>